

編集後記

▼『言語表現研究』第三十九号をお届けします。今年度は会員の皆様から七編の論考をご投稿いただきました。規定に基づく厳正な審査を経て、今号には六編の論文を掲載することができました。古典文学、国語教育、日本語教育、さらには理科教育の分野に渉る内容となりました。くわえて、昨年度、言語表現学会研究発表会で特別講演をいただいた玉井健先生からご寄稿いただきました。ご投稿、ご寄稿頂いた方々、査読に当たって頂いた方々、心よりお礼申し上げます。どうか宜しくご批評下さいませ。また、その他の分野からの積極的なご投稿も、心よりお待ちしております。

▼今回、査読及び校正に伴う査読者や執筆者とのやりとりにおいて、メールやフォーム等を使い、紙媒体が介在しない方法をとりました。投稿についても同様にご送付を伴わない方法に変更します。詳細は「投稿要領」をご覧ください。コロナ禍によって様々な作業がオンライン化されているなか、作業の効率化と、紙の優位性を行ったり来たりしながら、本学会の運営についても最善の方法を考えていきたいと思っております。

▼本学会の事務局である言語系コースが専門職学位課程に移って四年目が終わろうとしています。令和四年度入学生は、国語が十六名、英語が六名と、計二十二名の大所帯となりました。夜間コースも再開し、また、留学生も入学してきました。カリキュラムとしてはまだまだ試行錯誤な面もありますが、前号また今号にも、大学院生からの投稿があり、研究の熱量は衰えていません。今後もさらなる充実を目指していきます。

▼同じく言語系に関しては、英語学の有働眞理子先生、国語学（古典語）の田中雅和先生、古典文学の山口眞琴先生が令和三年度末に定年退職なさいました。三名共に三〇年近く本学会の運営に関わり、様々なご尽力いただきました。心より感謝申し上げます。

▼また、日本語教育学の岡崎渉先生が任期満了、国語科教育学の池田匡史先生が岡山大学へと異動となりました。コロナ禍による様々な変化とともに、大きな時代の節目を強く感じました。令和三年度末でした。

▼そして新たに、英語学の中村浩一郎先生、日本語教育学の竹口智之先生、古典文学の児島啓祐先生が着任されました。中村先生、児島先生には着任初年度から本学会の編集委員、運営委員を務めていただきました。新しい風をどんどん吹き込んで欲しいと思っています。

（羽田 潤）

言語表現研究 第三十九号

令和五年三月十五日発行

編集者 兵庫教育大学言語表現学会

発行者 会長 吉田 達 弘

発行所 兵庫教育大学言語表現学会

会長 吉田 達 弘

〒六七三―一四九四

兵庫県加東市下久米九四二―一

兵庫教育大学 言語系合同研究室内

（電話）〇七九五（四四）二〇八六

（メールアドレス）info@keigo-hyogonrg

（振替）〇一四〇―一七二二五

編集委員 中村浩一郎・児島啓祐

印刷所 鳴海智之・羽田 潤（委員長）

株式会社 ニシキプリン

